

2012 年度報告書（研究員）

氏 名	松嶋宣広
職 位	GCOE 研究員（短時間）
<p>研究概要</p> <p>GCOE 研究員（短時間）として在籍した 2012 年度は、従来に関心領域であったフィリピンにおける華人というテーマの中で、主として華人組織を研究対象とし、ホスト社会における華人組織の機能と変容を「公共性」と「親密性」という視点から考察する研究を行った。</p> <p>それは、例えば「フィリピンにおける華人組織の機能と変容－公共圏と親密圏の視点から」において、華人社会において従来「親密圏」として機能していた伝統的華人組織が、ある程度の「公共化」を行うことによって「親密圏」の拡大をはかり、組織としての生存をはかっている事実を指摘した。また、京都大学 GCOE 次世代研究出版プロジェクト助成として採択された「東南アジアの地域社会における宗教・社会組織の諸相と親密圏・公共圏の現在－宗教・生存・連帯のパースペクティブから」の共同執筆者の一員として、「移民社会における『親密圏』の形成と拡大－マニラ華人社会における伝統的組織－」を執筆し、移民社会における「親密圏」の成り立ちと機能、そして拡大と変容の過程を、フィリピン・マニラにおける華人組織を事例として検証した。</p> <p>また、研究報告では、特に東南アジア学会やフィリピン研究会等に積極的に参加し、三回の研究報告を行った。その内容としては、上記の関心に従ってフィリピンにおける華人組織の機能変容に関する報告となった。特に東南アジア学会における一連の報告では、フィリピンにおける華人組織の歴史を試論的に五つの段階に分け、それぞれ「華僑社会」の成立、拡大、階層化、分裂、再編として、「華僑」時代の対立や慣習を克服しつつ新たな「華人社会」へと発展する可能性について論じた。</p>	
<p>業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）</p> <p><b>著書：</b>黄蘊編『交錯する親密性と公共性－東南アジアの社会組織にみるアイデンティティ・生存』京都大学学術出版会，2013 年 6 月刊行予定．第三章「移民社会における『親密圏』の機能と変容－マニラ華人社会における伝統的組織－」執筆．</p> <p><b>論文：</b>「フィリピンにおける華人組織の機能と変容－公共圏と親密圏の視点から」『ソシオロジカ』第 37 巻，1－2 合併号，2013 年 3 月刊行予定．</p> <p><b>報告：</b>「フィリピンにおける「中国系社会」の形成と発展－「組織化」の視点から」東南アジア学会秋期全国大会，2012 年 12 月 1 日，上智大学．</p> <p>「19 世紀末から 20 世紀におけるフィリピン中国人組織の設立と発展」東南アジア学会 10 月度関西例会，2012 年 10 月 13 日，京都大学稲盛財団記念館．</p> <p>「フィリピンにおける華人組織－伝統的機能の変容と新たな役割」第 17 回フィリピン研究会全国フォーラム，2012 年 7 月 14 日，京都大学稲盛財団記念館．</p>	

